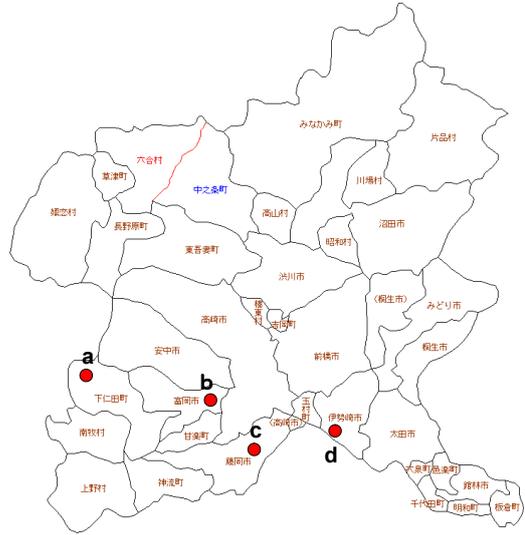


富岡製糸場と絹産業遺産群について
しらべてみよう

年 組 番 名前

群馬県立日本絹の里を見学して、①から⑥までのことについてしらべてみよう。

①富岡製糸場と絹産業遺産群は、日本国ばかりでなく世界の宝とするため、平成26年6月に世界遺産として登録されました。富岡製糸場以外にも絹産業遺産として、荒船風穴(下仁田町)、田島弥平旧宅(伊勢崎市)と高山社跡(藤岡市)が登録されました。さて、これらの遺産は群馬県地図のどこの地点にありますか？



- a
- b 富岡製糸場
- c
- d

②日本の世界遺産登録件数は、今現在(2021年5月)、23件あります。最近では、百舌鳥・古市古墳群が文化遺産として登録されました。さて、世界遺産登録されている富岡製糸場と絹産業遺産群は、なんとという分類の遺産になるのか、下記の語句から当てはまる遺産名をえらんでください。

こたえ () 遺産

- a 自然
- b 文化
- c 複合
- d 産業



金關寺「文化」



知床「自然」

③富岡製糸場は明治5年(1872)10月に繰糸(繭から糸をつくる)が始まりました。繰糸機はフランスから輸入したものを日本で使いやすいように改良したもので、300人の繰糸ができる世界トップクラスの規模の工場が作られました。

さて、ここで質問です、なぜこの工場が富岡の地に選ばれたのでしょうか。5項目の内、のこる3つの理由を考えてみよう！

- こたえ 1
- 2
- 3



- 4 燃料に使われる石炭(亜炭)が近くに確保できた 富岡製糸場
- 5 外国人指導の工場建設に地元の方が受け入れた

④田島弥平旧宅は江戸時代末期（1863年）に建てられたもので、田島弥平は明治時代初めに養蚕技術書（養蚕新論）を出版し、さらに蚕種販売会社の設立も行っています。田島家のある島村では明治初年から十年にかけては全村で蚕種（カイコの卵）を生産し、生産された蚕種はほとんど横浜から外国へ輸出されていました。その後は、近年まで国内利用の蚕種を生産していました。

さて、田島弥平旧宅は、カイコを育てるために特殊な工夫がされています。このような形をした家は養蚕地帯に多く見られます。さてどのような構造をもった家でしょうか。



たじまやへいきゆうたく
田島弥平旧宅

こたえ（ ）

- a 2階を設けた b 越し屋根（小窓つき屋根） c 屋根を瓦に d 南向きの家

⑤荒船風穴は、明治末期に造られ、岩の隙間から吹き出す冷風を利用してカイコの（？）を貯蔵していました。荒船風穴のこの貯蔵能力は国内最大規模で、現在でも石積みの中から天然の冷風が吹き出ています。

さて（ ）中の貯蔵品はなんのでしょうか？



あらかぶねふうけつ
荒船風穴

こたえ（ ）

- a 蚕種（カイコの卵）
b カイコの幼虫
c 繭
d 蛹

⑥江戸時代末期（1830年）に藤岡の高山家に生まれた長五郎は、「清温育」というカイコの育て方を開発しました。また、カイコの育て方を教える高山社（養蚕教育機関）をつくりました。今も残る母屋兼蚕室は2階が蚕室で高山社分教場として多くの生徒の実習に利用されていました。高山長五郎が確立した清温育は、すぐれたカイコの育て方のため（？）に広まりました。

さて（ ）内にあてはまる語句はなんのでしょうか。

こたえ（ ）

- a 群馬県内
b 関東地方
c 関東・中部・東北地方
d 47都道府県



たかやまちょうごろうせいけい
高山長五郎生家
（高山社発祥の地）